

# 県基準販売額上回る生育

## 青島温州 ヒリュウ台利用 試算

現場で使える！**研究成果**



ヒリュウ台（左）とカラ  
タチ台（右）の青島温州

わい性台木ヒリュウを利用したウンシユウミカン栽培については、低樹高による省力化などを目的に本県でも多くの産地で導入されている。しかし、一般的に普及しているカラタチ台と比較して、樹の生育が緩慢で収益が低いことが懸念されている。そこで栽培したヒリュウ台「青島温州」の収穫量などを基に販売金額を試算し、ヒリュウ台苗木

導入の有用性について検討した。

ヒリュウ台青島温州収穫量と販売金額の推移



その結果、1樹当たりの収穫量は結実1年目（5年生）で10<sup>+</sup>程度、結実3年目以降には20<sup>+</sup>以上見込めることが分かった。またスپردスプレーヤでの防除を想定し、10<sup>+</sup>当たり植栽本数を11本（樹間2.5<sup>+</sup>×列間4.5<sup>+</sup>）で試算すると、結実3年目以降はすべての年で県基準販売額（69万7千円）を上回る。

その結果、1樹当たりの収穫量は結実1年目（5年生）で10<sup>+</sup>程度、結実3年目以降には20<sup>+</sup>以上見込めることが分かった。またスپردスプレーヤでの防除を想定し、10<sup>+</sup>当たり植栽本数を11本（樹間2.5<sup>+</sup>×列間4.5<sup>+</sup>）で試算すると、結実3年目以降はすべての年で県基準販売額（69万7千円）を上回る。

果があり、今回の試算にもその効果を織り込んだ。一方、結実後の樹容積（樹高、樹幅）の拡大がカラタチ台と比較して緩やかになるため、初結実までに樹容積の拡大に努め、樹の生育に合わせて縮・間伐を行うことが必要だ。（農林技術開発センター）